

# 客船誘致促進事業

## 自治体情報

人 □ 135,500 人

標準財政規模 30,314,295 千円

担当課 北海道 小樽市 産業港湾部港湾室管理課

電話 0134-23-1107

ホームページ <http://www.city.otaru.hokkaido.jp/>

事業期間 平成 20 年度から平成 22 年度まで

参考とした施策

関係施策分類

## 施策の概要

### 1 取り組みに至る背景

クルーズ客船の入港は、港湾収入のほか、多くの乗船客による観光消費、関連産業への経済効果が期待できることから、小樽港としても誘致活動を進めている。現在、全国各地の港湾で寄港誘致への取組が活発化しているが、小樽港としても誘致活動を進めるに当たり、国内外の船社や旅行業者などに対してこれまで以上に積極的なプロモーション活動を行っていくことや、地元市民を挙げた歓迎体制の整備など寄港地としての特色ある魅力づくりを進めて行くことが必要となっている。



### 2 事業内容（目的・目標・方策）

#### (1) 小樽クルーズ客船歓迎クラブの設立

船社からの要望や乗船客のアンケート結果に基づき、寄港時の歓迎体制を拡充することが重要と考え、市民が寄港時の歓迎行事に参加する組織を平成 20 年 4 月に設立した。初年度は約 200 名の入会者があり、クルーズ客船寄港時に出迎えや見送りなどの歓迎行事に参加してもらっている。また、行事への参加意欲やクルーズ客船に対する知識の向上を図ることを目的に、セミナーなどの啓発イベントを実施し、会員はもとより多くの市民に歓迎行事に参加してもらえる体制づくりに取り組んでいる。

#### (2) 歓迎体制の充実

乗船客に本港の寄港をより楽しんでもらえるよう、クルーザーによる洋上出迎えや岸壁での地酒の試飲・即売など物産展の開催、郷土芸能の紹介、観光案内デスクの設置など、市内の観光ボランティア組織である「小樽おもてなしボランティアの会」「小樽観光ガイドクラブ」や観光協会、物産協会などの関係団体と連絡会議を組織しながら、歓迎体制の充実に向けて様々な工夫を図っている。

#### (3) 寄港地観光プランの企画・実施

寄港地での観光ツアーの魅力が乗客の乗船決定の大きな要素となるため、船社に対し、市内や近隣市町村などの、日帰り観光可能圏内の観光情報の提供や観光プランの紹介、提案などを積極的に行っている。



(4) 海外クルーズ客船誘致に向けたプロモーション

海外のクルーズ客船誘致に関しては、海外での本港の認知度の向上が重要であるため、平成20年度から海外で開催されるクルーズコンベンションに出展する観光庁ビジット・ジャパン・キャンペーンブースに協賛参加を行っている。来場者に配布される紹介パンフレットに本港の紹介ページが掲載されているほか、ウェブサイトにて本港の紹介ページが公開されており、海外船社関係者へのPRを図っている。



3 施策の開始前に想定した事業効果

クルーズ客船入港隻数や観光客数の増加による経済効果が期待できるものと想定しているが、誘致活動は成果が出るまでには長期間を要することが予想されるため、長期的な取組が重要と考える。

4 導入にあたり工夫・苦労した点、課題、対処法など

北海道ではクルーズ期間が短いことから客船の寄港時期が集中する傾向があり、複数のクルーズ客船の寄港日程が重なった場合、受入れ困難となる場合が懸念される。また、客船専用のバースや客船ターミナルなどのハード面の整備が遅れている点が寄港誘致を進める上での課題となっている。



5 現在の成果・実績、今後の展開など

本港の歓迎体制や港から小樽運河を含めた有名観光地が近距離にあること、交通機関へのアクセスの良さが国内船社から好評を得ており、本港を起点としたクルーズの定着を始め、国内のクルーズ客船の多くが寄港している。今後は国内の客船誘致はもとより外国客船の誘致にも積極的に取り組んでいく。

予算関連データ 小樽市

平成20年度額 ①～⑤の計		財源内訳(財源区分:①～⑤)				
		①国費	②県費	③起債	④その他	⑤一般財源
300千円		0千円	0千円	0千円	0千円	300千円
①～④の名称・所管等	名称					/
	所管					
	金額					
	補助率					